



皆様の「快適な暮らし」のヒントに

すまい造りメール

第193号 2018年4月号

SINCE 2002.4.1.

発行日平成30年3月30日
発行元有限会社佐野工務店
〒237-0068
横須賀市追浜本町1-25
TEL 046(865)4010
FAX 046(865)6139
http://www.sano-k.net/
info@sano-k.net

ベラボーなもの

1970年に開催された日本万国博覧会（大阪万博）のシンボルで、岡本太郎氏がデザインした「太陽の塔」の耐震補強や展示物の修復作業が完了し、内部公開が始まりました。

塔内部には原生生物が人類へと進化する過程を描いた高さ約41mのオブジェ「生命の樹」がそびえ、183体の生物模型がリニューアルされました。

「人類の進歩と調和」という万博のテーマに副った丹下健三氏設計の大屋根は一部を除き、すでに解体されてしまいましたが、この「ベラボーなもの」は約50年経過した現在も異彩を放っています。

まさにこれが「芸術は爆発だ！」と。



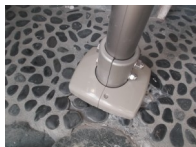
介護保険住宅制度を利用した住宅改修工事を担当させていただいたお住まいをご紹介します。

いつでも、どんなときでも、ひとりで、誰の助けも借りることなく、安全にまた気軽に外出ができるように、玄関ポーチの入口の階段部分に横手すりを設置しました。

「前略 おせわ様。その後いかがお過ごしですか。」

和風の趣のある玄関部分の雰囲気を変えずに、また、那智石で仕上がった床部分に柱を埋めるための大きな穴を掘るのではなく、アンカーで止めるタイプの固定の方法を選択しました。

「劇的な」リフォームではないかも知れませんが、ピフォア、アフター、さらにそのアフターまでお手伝いさせていただきます。



横須賀歴史ミステリー

観音崎や久里浜を好みな時間にのんびりと散策しながら歴史の謎解きをしましょう。



UFOや古代文明、超常現象などを独自の切り口で紹介している月刊「ムー」と横須賀市のコラボで横須賀の秘められた歴史と不思議を説き明かしていく参加型イベントが5月6日まで開催されています。（主催横須賀集客促進実行委員会）



京急各駅にてミッションが記された専用の謎解き台紙をゲットして、謎解きをスタートしましょう。

皆様のご愛顧、ご愛読に感謝申し上げます
創業 1960.1.20. Next50
創刊 2002.4.1.

よこそか文学館

<28>

横須賀市にゆかりのある文学者や歴史上の人物にスポットをあてて、時代背景とエピソードを交えながら彼らの文芸を紹介いたします。

【咸臨丸の人々】勝海舟④ 「海舟の俳句」

『勝海舟全集20』（講談社）収載の「海舟句集」を見る限り、海舟の詠んだ句は50句に満たず、漢詩や和歌に比べると多くありませんが、海舟の人柄が偲ばれる句などが散見され貴重ですので、少々紹介します。「欲張

りて纏頭失ふな勝角力」は、日清戦争後の三国干渉の頃の句で、悲憤慷慨する世の人々をたしなめるよ

うな句。「纏頭」とはご祝儀のこと。ちなみに、海舟は日清戦争反対論者でした。海舟自身が得意としていた句は「時鳥不如帰つひに蜀魂」。蜀魂」というのは、古代中国の蜀の望帝の魂がこの鳥に化したという伝説による異称です。「ほととぎす」に異なる漢語を当てたのが妙味。



咸臨丸難航図
(横浜開港資料館保管)

洗足学園中学高校教諭
中島正二

横須賀ストーリーズ（環境に配慮した街づくり）＜10＞

52年11ヵ月の間、都市政策を中心に横須賀市の発展に寄与され、最後の8年間は2期に亘り、横須賀市助役として活躍された井上吉隆氏に横須賀市の変遷やまちづくりのこぼれ話についてお話を伺いました。

YRPの建設について、計画段階から環境問題を重視しました。プランの作成以前には現地の踏査を実施しました。60ヘクタールの大きな丘陵地帯で、ほぼ中央部は谷を形成し湿地帯が東から西に向け形成されていました。その湿地帯は以前には田に給水のために利用されていましたが、減反政策で田は既に消滅してしまいました。そこで現況がどうなっているのか藪漕ぎをして湿地帯に降り立つと、驚いた光景が目に入りました。そこには多くのたばこの吸い殻が散乱してよくぞ火災にならなかったものだと驚愕しました。そして、スナックの菓子の袋が所せましと捨てられていました。

土地の所有者も利用されなくなった土地なので、そのまま放置されていたので周辺に遊びに来た人により、こうした惨状になったものと思われました。そこで、開発後も湿地帯を再生しそこに生息する生物を保護できないかと考えました。

一方、開発に当たっては丘陵部分を切り取る土砂をどうするか、開発地から他の処分場に運搬するのであれば、沿道の住民に方々に迷惑をかけることになるので、開発地内で処理することにしました。そこで、湿地帯を埋め立てることになるので学識者により、埋め立てに伴う湿地の再生について検討していただき、その検討会の結果に従い先ず湿地帯の周辺を整備し、その地に湿地部分の土砂、植生を仮置きしておき、湿地を形成していた谷の部分を周辺の丘陵部分を切り土した土砂を30メートル埋め立てて、その上に仮置きした湿地の土砂、植生を埋戻し湿地として再生しました。そして、上流の水を以前のように湿地部分に取り込むことが出来て、完全に復活できました。現在この湿地帯には野鳥が飛来し、撮影に来る人も増加しています。

YRPが完成した後に、当時の環境庁長官が現地視察に見えられ、湿地帯を30メートル嵩上げて残したこと、隣接して水辺公園を新設したことによりカワセミをはじめ多くの野鳥が訪れ、市民の目を楽しませていることについて、長官から「こうした開発手法は今後の開発にあたってのモデルになるのではないか」との評価を頂いたのが印象的でした。

この環境に配慮したYRPも学識者、行政、開発事業者の一体となった取り組みにより実現いたしました。

（元横須賀市助役 井上吉隆）

※ 2月から4月にかけて急きょ予定を変更し、横須賀ストーリーズ「YRP物語」を三話に亘り掲載させていただきました。5月からは、「横須賀製鉄所物語」を再開させていただきます。よろしく申し上げます。

樹齢200年

ソメイヨシノは、挿し木や接ぎ木によってのみ数を増やすことができる、いわば、同じDNAを持つサクラのクローンです。すべてのソメイヨシノがまったく同じ性質を持つことから、一斉に咲いて一斉に散るといふ、春の訪れを告げるサクラ前線の指標には最適となります。

江戸時代末期ごろ、江戸の染井村（現在の東京都豊島区駒込）の植木屋・伊藤伊兵衛政武氏が、オオシマザクラとエドヒガンの自然交配によってできた1本のサクラを「吉野桜」として、挿し木や接ぎ木にして、売出したのがはじまりとされています。成長が早いこと、開花が華やかであることなどが好まれ、明治以来、さらには戦後にも、全国各地に植えられました。ところが、遺伝子の異なる樹木同士で交配を重ねながら、強い遺伝子が残るといふ自然界では当たり前前の環境適合を行っていないため、害虫や病気に極めて弱く、また、地中の浅いところに根があるため、根元の土を踏み固められると呼吸ができなくなり枯れてしまうという性質も持っています。サクラの名所のうち、ソメイヨシノの傷みが特に激しいのは、これらが原因のようです。

大切に見守りたいものです。（参考資料/平塚昌人著「日本のサクラが死んでゆく」新風舎文庫）

お問い合わせ

住まいに関する皆様の疑問や質問、お知らせしたいことや情報などがございましたら、ご連絡ください。郵送の停止を希望される場合や、バックナンバーを希望される場合など、ご遠慮なく、お申し出ください。

尚、ホームページより「**すまい造りメール**」創刊号からのバックナンバーをはじめ、追浜周辺の地図「Oppamap 2018」A-9歩ZONE版（永久保存版）をダウンロードすることができますので、アクセスしていただき、ご活用ください。

皆様の「快適な暮らし」のヒントになることができましたら幸いです。

〒237-0068 神奈川県横須賀市追浜本町1-25 有限会社佐野工務店
TEL 046(865)4010 FAX 046(865)6139

すまい造り

検索